

令和 8 年度三ヶ日青年の家指定管理者候補者選定委員会（2 次審査） 議事録

日 時 令和 8 年 8 月 12 日（水） 午前 9 時 30 分から正午
場 所 県庁西館 8 階教育委員会議室
出席委員 佐伯委員長、金子委員、楠城委員、鉄委員、川島委員、森田委員、
中山委員（委員 7 人全員出席）
事 務 局 社会教育課 小竹課長、長谷川課長代理
青少年育成班 野川班長、會田教育主査、村田主任

－ 開 会 －

－ プレゼンテーション・ヒアリング －

<三ヶ日フィールドパートナーズ>

※プレゼンテーション（25 分）省略

－ ヒアリング要旨 －

※委員長による代表質問と委員追加質問

（委員長）プログラムに関する質問であるが、現在は青少年が中心のプログラムになっているかと思うが、青少年以外の対象、例えば一般企業等に対する具体的なプログラムや受入体制はどうなっているか。また、プログラムに対してどんな構想をしているか。

（申請者）青少年向けのプログラムが多くを占めているが、既存のプログラムにおいても、成人や企業の方の利用は多くある。今回新たに提案したプログラムについても、企業の方々でも参加、活動できるような内容で構築している。

（委員長）具体的にどういうニーズがあるか、どういうプログラムを実施しているか、詳しく聞かせてほしい。

（申請者）メインプログラムであるダブルハルカヌーでは、今年度も一般企業の利用実績がある。当施設は新入社員研修のニーズが特に多く、浜名湖を漕ぐ活動を通じて社員同士の交流を深められるプログラムが一般企業から求められている。

（委員）一般企業の皆様への PR や広報は、具体的にどのような方法で行っているか。

（申請者）PR に関しては、ホームページや SNS 等の媒体を通じて広報を行っている。その他、実際に利用した企業における高評価の波及や、他社への紹介も行われている。このように、既存の利用実績がある企業からの紹介や推奨、自主的な情報伝達という経路を通じて、一般企業向けへの広報・営業を展開している状況である。

（委員長）本日のプレゼンでは言及がなかった点について伺いたい。利用者の個人情報保護について、申請書に記載がある。個人情報を含む記録媒体を持ち出す場合、紙媒体での持ち出しは行わず、パソコンでの持ち出

し及び USB のみとするとしているが、USB を外へ持ち出す具体的な目的について教えてほしい。また、USB は紛失や情報漏洩が起こり得ると思うが、持ち出す際のセキュリティ対策はどのように考えているか。

(申請者) USB の持ち出しに関する記述はあるが、これは「館内（事務所から研修室等）」において、オリエンテーション等を行う際に個人情報を一時的に移動させることを想定したものである。施設外への持ち出しは一切想定しておらず、実際の運用においてもそのような事例はない。使用範囲は「丸太の森」などを含む館内での扱いに限定している。

(委員長) その場合、活動中に館内で USB を紛失してしまうことも想定されるがセキュリティ対策等で講じている具体的な措置はあるか。

(申請者) USB 自体に暗号化処理を施しており、他のパソコンでは認証しない仕様になっている。また一部パソコンにおいては、市販の USB を接続した際にも読み込みができないよう、パソコン端末側にもアクセス制限を設けている。

(委員) USB を使用する必然性、必要性について伺いたい。

(申請者) 実際のところ、個人情報を USB メモリに格納して外部へ持ち出すことは実施していない。提出書類の保管については、紙媒体のままで保管場所や容量に限界があるため金庫で保管している。現在、この提出書類を扱える担当者のみ限定されており、他者が触れることはない。また、オリエンテーション資料等には個人情報が含まれないため、基本的には個人情報が外部へ漏洩するリスクは低いと考えている。

(申請者) なお、直筆の紙媒体としてしか残らない一部の書類については、バックアップとして PDF 化した上で USB メモリに保存し、その USB メモリ自体を金庫で保管するという管理体制をとっている。

(委員) 申込みを Web にて受付するという話があったが、この Web 申込みシステムにおいて、パスワードによる閲覧制限などのセキュリティ対策は講じているか。

(申請者) Web 申込みシステムについては、事前の電話問い合わせ等に基づき、個別にシステムへの案内を行っている。案内を受けた利用者のみが閲覧及び入力できる仕様となっており、第三者が無制限にアクセスできないようセキュリティ上の制限を設けている。

(申請者) また、Web 申込みの受付専用として、ネットワークを分けた専用のパソコン端末を配備しており、場内からデータが外部に出ないよう物理的・システムの両方にも徹底して管理している。

※各委員からの質問

(委員) 海洋活動における気象リスク、特に強風による活動中止への代替プログラムについて質問する。浜名湖や猪鼻湖周辺は、他地域から訪れる子どもたちにとって景色を眺めるだけでも極めて価値が高い環境である。そのため、乗船の有無に関わらず、強風時でも周辺環境を活かした活動が展開できないか。例えば、整備中のサイクルターミナルの活用や、トレイルランニング、約 12 キロにわたり舗装されている猪鼻湖の遊歩道・自転車道を利用したウォークラリーといったコースの検討である。瀬戸橋

周辺の安全管理上の課題をクリアできれば、非常に魅力的なプログラムになると考える。強風等により海洋活動が困難な場合における、施設外の豊富な地域資源を活かした代替プログラムについての見解を伺いたい。

(申請者) 当所が新規事業として提案している「みかんの里大冒険」をはじめ、地域と連携した体験型プログラムを展開する予定である。さらに、委員からご指摘のあった瀬戸港や地域の天竜浜名湖鉄道などを活用した地域連携プログラムの構築についても、引き続き実現に向けて検討を進めてまいりたい。

(申請者) また、委員からご指摘のあった通り、猪鼻湖 1 周は非常に魅力的なコースであり、以前実際にサイクリングプログラムとして実施していた実績もある。ただ、実施するにあたり、瀬戸橋付近の安全確保や活動前のエリア点検（倒木の有無や草の繁茂状況の確認）を 12 キロにわたり職員が巡回し、整備・確認することが、困難であるため、一度コースを廃止した経緯がある。しかしながら、観音山からの移動に伴い「日程を 2 泊から 1 泊に短縮した」あるいは「より長距離を歩く活動がしたい」という学校現場からの要望は非常に多く寄せられているため、新規プログラムとして検討を進めてまいりたい。

(委員) 防災・避難訓練について質問する。過去に利用者団体（小中学校等）から「宿泊中に避難訓練を実施してほしい」「緊急時の対応を事前にシミュレーションしたい」といった要望はあったか。また、実際にこどもたちを巻き込んだ避難訓練の実施実績があれば伺いたい。

(申請者) 利用者から直接「避難訓練を実施してほしい」という具体的な要望は多くないが、初めて利用する宿泊施設での緊急時対応に少なからず不安を抱いている団体は存在する。当所の対応としては、入所直後のオリエンテーションにおいて、避難経路や避難場所、避難時のルールについて、所員から児童生徒や引率指導者へ必ず説明を行っている。また、利用者を実際に動かす避難訓練の実施例はないが、職員向けには、年間訓練の中で地元の消防署と連携して訓練を毎年実施している。

(申請者) また、実動としての避難訓練はないが、プログラムの中に「施設内ウォークラリー」を設けている。入所直後などの時間を活用し、ゲーム感覚で施設内を巡ることで、楽しみながら「どこに何があるのか」という施設環境や、「有事の際の避難経路」を把握してもらう取り組みを学校側にも推奨している。

(申請者) この施設に 13 年関わっているが、避難訓練の必要性は確かに感じている。小中学生の宿泊時に、学校と同様の避難訓練を当所でも実施できないかと考え、事前打合せの際に「プログラムの合間に避難訓練を組み入れないか」と学校側に数回提案した。しかし学校側は、限られた短い宿泊期間の中でプログラムを目的に来所しているため難しいと断られた経緯がある。それでも、災害はいつ発生するか分からないため、一度は実際の宿泊者を動かす実動避難訓練を実施したいという希望はもっている。

(委員) 様々な想定訓練は行っているが、実際に数百人規模の児童生徒を動かす

訓練を体験しておくことが、今後必要になってくるのではないかと考え質問した。

(申請者) 有事の際などには予測し得ないこどもの動きも生じかねないため、今後は実践的な訓練の実施に向けた検討を行っていききたい。

(委員) 今後、どこかの機会を設けて導入について検討していただきたい。

(委員) 実際の利用者を動かす避難訓練は非常に有意義であると考え。宿泊プログラムのスケジュールに配慮しながら、例えば「夕食後から夜間活動へ移るタイミング」や「海洋活動から陸上活動へ切り替える際」などの合間の10分～15分を活用し、避難経路を確認しながら実際に動くシミュレーションであれば学校側の負担も少なく実施できる可能性があると考え。学校を離れ、不慣れな宿泊施設にいる時にこそ避難訓練の価値がある。学校側にもその趣旨を提案し、まずは主催事業や一部の協力的な学校から実動での避難訓練を実施できれば、これまで気づかなかった新たな課題や改善点など、多くの発見が得られるのではないかと期待している。

(委員) 会計管理の観点から、数点質問する。今回の委託料提案額は「年間1億2220万円」となっているが、提示された予算構成と、これまでの実際の決算(実績)はほぼ同等と捉えて相違ないか。

(申請者) ほぼこれまでの実績に準じた、同等の予算構成となっている。

(委員) 毎年同程度の修繕費および維持管理費が計上されているとのことだが、今後、建物の老朽化が進むに伴い、修繕コストが年々増加していくのは必然であると考え。この点について、今後の見通しや対策をどのようにお考えか伺いたい。

(申請者) 5カ年計画の中でより具体的な収支計画を提示したいと考えているが、昨今の物価高や、年間約104%のペースで上昇している最低賃金(人件費)の高騰など、予測困難な外部要因が存在する。ご指摘の通り、厳密には修繕費等も上昇傾向にあり、本来であれば利用料金収入を年5%程度増加させ、それに伴って修繕費を充当していくサイクルが理想である。しかしながら、令和9年度の利用状況はすでにほぼ満室(限界)の状態であり、月曜日等の利用拡大を図らない限り、これ以上の増収は現実的に厳しい状況にある。それでも、30万円未満の修繕に関して、特に利用するこどもたちや職員の安全が最優先であるので、仮にこれら安全対策費用の増加によって収支がマイナスとなった場合でも、それは指定管理者としての「企業の社会的責任」と捉え、確実に予算を確保して真摯に対応してまいりたい。

(委員) 業務のデジタル化に伴う経費削減について、具体的な内容を伺いたい。提出資料では、「外注管理の見直し」によるコスト削減が挙げられ、施設修繕等を職員が自ら実施することで管理コストを低減させるとされているが、デジタル移行による具体的な事務負担の軽減(ペーパーレス化や人件費削減)に関して、これまでにどのような実績や具体的な効果があるのかお聞かせいただきたい。

(申請者) デジタル化による業務効率化およびペーパーレス化について、当施設

では現在、紙媒体の取り扱いを極力減らす取組を進めている。具体的なペーパーレス化の効果としては、利用団体から提出される書類のデータ管理が挙げられる。1 団体あたり 10～20 枚に及ぶ書類を紙媒体のまま保管する場合、年間約 350～380 団体分の保管スペースや用紙が必要となるが、これらをデータ保存へと移行した。さらに、これまで紙媒体を用いてアナログな手法で行っていた受入受付業務を、すべてパソコン上の受付フォームへと移行しデジタル化した。この受付業務のシステム化が、ペーパーレスにおいて最も大きな削減・縮小効果を生んでいる。また、人件費の抑制にも大きな効果が出ている。以前の紙媒体を中心とした運用では、こどもたちの活動（指導）が終了する 17 時 30 分以降に、手書き等による膨大な事務処理が発生し、これが日常的な残業に繋がっていた。受付業務等のデジタル化・システム化を推進した結果、現在の残業時間は 1 日平均 1～2 時間程度にまで抑制されており、人件費削減や職員の負担軽減に寄与している。

（委員）運営会社である株式会社ヤタローの財務健全性について確認したい。同社の決算書を拝見すると、売上に対して営業利益がマイナス（営業損失）である一方、営業外収益のプラスによって最終的な利益を確保している構造が見受けられる。このように、本業における営業損失が継続している状態は、今後の持続的な施設運営において懸念が残るが、財務的な安定性や事業への影響について伺いたい。

（申請者）当社はグループホールディングス体制をとっており、提示している決算書は指定管理者である株式会社ヤタローのものである。私どもが運営する「三ヶ日青年の家」の指定管理は株式会社ヤタローが担っているが、グループ内で最も規模が大きく高収益を上げている会社が別にある。ヤタローは親会社の位置づけにあり、そのグループ会社の事業収益が、ヤタローの営業外収益に反映されることで、最終的な利益を大きく押し上げている。

— ヒアリング終了・採点 —

【ヒアリング後の採点結果】

項目ア： 8.3 点

イ：24.4 点

ウ：10.9 点（委託料の提案額 4 点）

エ：15.4 点

オ：20.9 点

加点： 3.7 点

総合計：83.6 点

— 協 議 —

(委員長) 第1次審査と同様に、評価項目アから順番に意見交換を行い、必要に応じて採点の修正を行っていくこととする。

○ア「県民の平等な使用の確保とサービスの向上が図られること」についての評価

(委員長) 項目アは、配点10点に対して平均点が8.3点となっている。項目アに関して、意見や他の委員の評価を見て何か質問のある方はいるか。

(各委員) 得になし。

(委員長) 項目アについては、配点自体が小さく、また各委員の採点結果に大きな差は見受けられないため、意見交換は以上でよろしいか。項目アについて、修正がある委員は集計結果表に記入をお願いする。

(各委員修正)

○イ「施設の効用を最大限に発揮できる事業計画であること」についての評価

(委員長) 小目イは、配点は一番大きい30点。それに対して平均点が24.4点となっている。項目イに関して、特に意見のある方や他の委員の評価を見て質問などがある方はお願いする。

(委員) 事務局に伺いたい。利用者数の確保について、現在、施設の稼働率がほぼ上限に近い状況となっている。このように上限に近い状態が何年も継続することは、近年例がなかったと認識している。今後の指定管理期間もこの上限に近い状況が続いていくと想定されるが、それによって生じる課題、例えば施設の老朽化を踏まえた維持管理上の問題や職員の働き方など、懸念される点があれば教えていただきたい。

(事務局) 委員のご指摘の通り、またプレゼンテーションでの説明の通り、宿泊利用においては、実質的な上限である客室稼働率7割が満室を意味しており、すでに受入れの上限に達している状況である。一方で、海洋活動を行わない閑散期(11月から3月)の受入れについては、まだ工夫の余地があると捉えている。しかし、懸念点として、この冬期は海洋活動における職員の安全管理訓練や研修を集中して実施する時期でもある。閑散期の受入れを過度に増やすと、安全訓練が疎かになってしまう恐れがあるため、受入拡大と訓練実施のバランスが極めて重要になると考える。先ほど提示された申請者の提案においても、この年間利用の平準化と安全訓練の両立を課題と捉え、年間を通じた計画的な運営が示されていた。今回が1社のみの公募選定であったが、今後の施設運営においても、この利用の平準化と安全訓練の確保のバランスが非常に重要なポイントになると考えている。

(委員) 申請者の提案資料の中に「閑散期への積極的な利用案内・提案」とあったが、学校団体は年度当初に年間計画を策定して宿泊日を決定している。そのため、繁忙期等の満室時に問い合わせがあった際、「満室のため閑散期を利用してほしい」と案内しても、実際には学校側におけるスケジュールの再調整は困難であるのが実情である。したがって、閑散期への利用平準化を促す提案は、極めて地道に営業活動を展開しなければ、実を結

ぶのが難しい課題であると捉えている。これは指定管理者のみの問題ではなく、県側も大きな目線に取り組んでいくべき課題であるとする。

(委員) 自身もヒアリングの際に提案させてもらったが、気象リスク等によりカヌー等の海洋活動が実施できない際にも、代替プログラムを求める利用者のニーズが実際に存在している。申請者もその必要性を理解した上で、新たな活動を提案している。地域の諸団体と良好なコミュニケーションが図られていることから、新たなプログラムへの具体的な展開や、今後の活動の広がりが期待できるのではないかと。また、月曜休所日の設定など、職員の労働環境に対して十分に配慮がなされている点についても評価できる。

(委員) 今回の提案では言及がなかったが、外国人団体の受入れは今後の重要なポイントになると考える。具体的な受入れ方法の整備や、利用者の多いブラジル籍の方々に向けた言語対応など、人的対応や具体的なサポート体制をどのように構築していくのか。こうした多様な受入れに伴い、今後新たなニーズが生じていくことを踏まえ、しっかりと考えていく必要がある。

(委員長) 確かに、提案資料には今回、外国人団体の受入れに関する記載はあるが、具体的にどのような配慮をしていくのか、また現在どのような配慮がなされているのかについて、詳しい説明はなかった。

(委員長) 他に意見がなければ、項目イに関して採点を修正する方は、集計結果表に記入をお願いします。

(各委員修正)

○ウ「管理運営に係る経費の縮減が図られるものであること」についての評価

(委員長) 項目ウは、①の委託料の提案額については配点 5 点、②の経費縮減に関する提案については、配点 10 点で合計 15 点の配点である。①は計算式により 4 点と算出され、配点 15 点に対して 10.9 点となっている。①については計算式にて決まっているので、②について意見のある方はをお願いします。

(委員) ヒアリングでの質問と重複するが、提案の中でペーパーレス化やデジタル化による具体的な経費削減案がなかった点が懸念される。ペーパーレス化やデジタル移行を進めることで、具体的にどのように経費が削減されるのか、また初期コストやシステム維持コストとのバランスがどう保たれているのかは不明瞭である。しかし、経費削減に向けて、努力している姿勢については十分に理解できる。

(委員長) 他に意見がないようであれば、項目ウ②に関して、修正のある方は集計結果表に記入をお願いします。

○エ「事業計画に沿った管理運営を安定して行う能力を有していること」についての評価

(委員長) 項目エは、配点 20 点に対し、平均点が 15.4 点となっている。項目エに関して意見のある方はお願いしたい。

(委員) ヒアリングにおいて回答があった決算における営業利益と営業外収益(雑収入)の関係について補足する。親会社・子会社間、あるいはグループ

内において利益を還流させる手法は複数存在する。例えば、配当として還流させる方法もあれば、「経営指導料」や「経営管理料」などの名目で、親会社側が一定額を回収する方法もあり、グループ全体の経営ノウハウやサポートを提供することに対する「経営指導料」として、ヤタロー側が収入を得る構図となる。この場合、ヤタロー側の決算書においては、本業の営業利益ではなく、営業外収益（雑収入）の区分に計上されることとなる。したがって、実質的なヤタローの企業活動および経営基盤は、こうしたグループ内取引による収益によって健全にカバーされているということが確認できた。

（委員）ただ、ホールディングス化している組織の会計処理においては、会計士の感覚からすれば、これらは売上（営業収益）に計上しても良いのではないかと考えるが、これらを雑収入（営業外収益）として計上する企業も多く存在する。結論として、今回の会計上の表現、すなわち営業損失を営業外収益でカバーして黒字化している点については、企業内における処理手法の問題であり、事業の継続性や実際の運営能力においては、全く問題がないものと評価する。

（委員長）ヤタロー側の売上に計上されていなかったため、決算書の表面上は営業利益がマイナスに見えていたという背景であると理解した。①について解説いただいたが、他の項目での意見はいかがか。

（委員）ヒアリングで回答があった USB メモリの管理方法について、懸念が残る。特に「特定の管理者が一元的に管理しているため安全である」との説明があったが、一人の担当者に依存する管理体制はかえってリスクを伴う可能性がある。複数人による客観的なチェック体制をしっかりと構築すべきではないか。

（委員長）④の個人情報保護の点に関しては、引き続き厳しめの視点で評価を行っている。そもそも、プレゼンテーションにおいて個人情報保護に関する説明が一切なかったという点も懸念される。また、現在も紙媒体での情報が一定量残っているとのことだが、これらを今後どのように処分や管理していくのかという点についても疑問が残る。

（委員長）また、③の施設運営の組織体制についても、一次審査に引き続き厳しめの評価とした。現在の施設利用状況においては、すでに飽和状態（稼働率が限界に近い状態）なのではないかと考える。現行の人員体制を踏まえた上で、提案資料の中に「持続可能な施設運営」に関する提案が立てられてはいるものの、果たしてそれだけで十分と言えるのか疑問に感じている。この点について、申請者側から具体的な説明は特になかったように見受けられる。

（委員）現行の指定管理者における人員体制や時間外労働の発生状況について、事務局側で把握しているか。

（事務局）時間外労働の発生状況については、一応、ある程度は存在していると認識している。また、組織体制に係る提案の中では、1名新規採用を予定している旨が提案書上に記載されている。事務局の立場から詳細に言及することは差し控えるが、事業者側としても人員体制について

考えているものと受け止めている。

(委員長) それは、1 人が退職したことに伴う単なる欠員補充なのか、それとも全体の人数を増やす実質的な増員となるのか。

(事務局) 少なくとも令和 8 年度（本年度）の現行体制と比較した場合には、1 人増やす意向であると聞いている。それ以前の過去の体制と比較した場合の増減については別途検証が必要であるが、少なくとも現行体制よりは全体の人数を 1 人増やそうとしていると受け止めている。

(委員長) 提案書を見る限り、あまりにマルチに業務をこなしている状況であり、業務遂行において懸念を抱く。人員体制について、1 人でも増員されることが望ましいと考える。

(委員長) 他に意見がなければ、項目エに関して採点の修正のある方は修正をお願いします。

(各委員修正)

○オ「施設の運営管理・事業の実施に当たり、安全管理体制を十分に整えられるものであること」についての評価

(委員長) 項目オは配点 25 点に対して、平均点が 20.9 点となっている。この項目において小配点はない。意見のある方はお願いしたい。

(委員) 採点について、この安全管理体制を評価するにあたり、評価項目をもう少し細分化した方が良いのではないかと。25 点という大きな配点の中では評価の基準がなく、採点が難しい。

(委員長) 第 1 回選定委員会において、評価項目を細分化することで提案のなかった項目に対して 0 点になってしまう懸念が議論され、今回は小配点を設けなかった経緯がある。しかし、採点をする側としては、評価基準がないため難しいという側面もある。次回の選定に向けて、評価基準のあり方について課題として事務局に申し送りしたい。

(委員) 評価項目については同感である。25 点という大きな配点の中で、一律に判断することは難しい。ただ、申請者の安全管理体制そのものに関しては、これまでの実績も含め、非常に高くしっかりとやり込まれているという印象を持っている。

(委員長) 確かに安全管理体制については、提案書類の段階から 1 番具体性があると感じられた。他に意見がなければ、項目エに関して採点の修正のある方は修正をお願いします。

(各委員修正)

【意見交換後の採点結果】

項目ア： 8.3 点

イ：24.3 点

ウ：10.9 点（委託料の提案額 4 点）

エ：15.4 点

オ：20.9 点

加点： 3.7 点

総合計：83.5 点

(委員長) 最終得点は 83.5 点という結果となった。この採点結果について意見があれば願います。

(委員長) では、この結果をもちまして、「三ヶ日フィールドパートナーズ」を静岡県立三ヶ日青年の家の指定管理者候補者として選定するということでよろしいか。

(委員一同同意)

(委員長) では、本委員会として「三ヶ日フィールドパートナーズ」を指定管理者候補者として選定することに決定する。

【総括】

(委員長) 指定管理者候補者に対して「評価できた点」や「今後期待する点、要望」について意見を伺いたい。

(委員) 三ヶ日の特色である海洋プログラムを前面に押し出している点は、当施設の非常に大きな特徴であり、特化点の一つとして評価できる。あとは、天候等の影響により海洋プログラムが実施できない場合の代替プログラムをどのように開拓していくかという点である。先ほどの協議において委員から提案のあった「浜名湖一周」などの取り組みは、実際に成し遂げることで利用者に非常に大きな達成感をもたらすものと考ええる。こうした魅力的な代替プログラムの構築についても、今後に向けて検討いただきたい。

(委員長) 指定管理者候補者の評価できる点として、三ヶ日ならではの特徴を有する多様な海洋プログラムが提案された点は、まさにその通りであると考ええる。加えて、次の「今後の要望・課題」とも深く関連するが、天候不順等によって当該海洋プログラムが実施困難となった際の代替プログラムについてである。陸上プログラムが想定されるが、これらを今後どのように展開させていくかは要望につながる。

(委員) 単に利用者を受け入れるだけでなく、三ヶ日地区に限らず近隣地域の小中学校に対する支援や指導、あるいは地元住民と協働で実施している事業などの活動を通じて、多大なる地域貢献を果たしている点は評価できる。

(委員長) 小中学校への出前講座なども積極的に実施されており、そうした学校への支援や地域連携を通じて多大なる地域貢献を果たしている点は評価できる。

(委員) 実質的な受け入れが 100%になると「これ以上は無理だ」と頑張れなくなることもあると思うので、閑散期もあることを踏まえ、この稼働率 70%という状況をどのように改善していくか検討していただきたい。

(委員長) 今は他施設からの利用の流れがあるという状況だが、それがもし改善されていくとなったときでも、一定数の利用者が見込めるような魅力あるプログラムを提供し続けられるか、ということか。

(委員) その通りである。さらに、実質受入れ 100%のままでは、実際には利用したかったけれど使えなかった人たちのニーズは全く満たせていないということになるため、そこには改善の余地がある。

- (委員長) 非常に多くのプログラムの提案がある一方で、それらが実際にどの程度機能し、運用されているのかという点や、プログラムの見直しがどのように行われているのかは見えにくかった。単にプログラムを提案するだけでなく、提案したプログラムが実際にどのくらい動いていて、利用者がどのくらい満足して帰られたのか、またそれを踏まえて「次はこう改善していこう」というサイクルがどのように回っているのか、そのあたりの実績や今後の見通しを示していただけるとよい。
- (委員) 建物自体は既存の施設であるため、稼働率を上げるとすれば人員を増やすほかない。もう 1 点、閑散期についての言及があったが、統計情報として「何月にどの程度の人が利用しているか」という詳細なデータがあれば、「さらにこのように改善したらよいのではないか」という意見も出しやすくなるため、そうした統計情報を整理して我々にも提示していただきたい。
- (委員長) 稼働率や利用者アンケートなどの結果を公表した上で、それを踏まえてどのように改善していくかという流れが示されるとよい。
- (委員) 職員の資格取得についてであるが、必要とされる資格を職員全員が有しており、その後もさらに研修を重ねている。プレゼンテーションでも「星空案内人」の資格について説明があったが、研修を通じて必要な資格を積極的に取得し、それを業務に活かしていこうとする組織としての努力が感じられた。今後もますます新しい分野や必要な分野での資格取得を進めていってほしいと思うとともに、そうした意欲が感じられる点は評価できる。
- (委員長) 職員が積極的に資格取得に取り組み、活動の魅力を向上させようとしている点は評価できるということである。安全対策についてはいかがか。
- (委員) 前回の選定委員会での選定理由の一つに「安全対策についても、これまでの実績をさらに発展・向上させるための、新たな実効性のある提案がなされていた」とあるが、今期までの実績はこの延長線上にあるものとする。今回の大きな違いとしては「南海トラフ地震等に対する災害対応」が挙げられる。国などから新しく示される情報に合わせ、今回の申請書の中では十分に考慮されており、主体的に対応していくという姿勢が見られた点は大きなポイントとなるのではないかと。これまで確実に安全管理を行ってこられた上で、さらに新しい情報も取り入れながら進めていこうとする姿勢が見えた点は非常に評価できる。
- (委員長) 安全管理の部分は配点も大きく非常に重要であり、提案の中でも最も具体性が見られた。これまでの取り組みに加え、最新の情報を反映させてアップデートしていこうとする姿勢は評価できる。
- (委員) 人材育成サイクルに関する言及があったが、プレゼンテーションを行った職員自身もかつて当事業の参加者であったとのことである。指導に関わった方、働く方、それ以外の方も巻き込んで地域に還元されているところのサイクルができてきている。このような取り組みは非常に素晴らしい、成果が出ているのではないかと感じた。

(委員長) 人材育成サイクルを踏まえた地域貢献や、地域との関わりが非常によく構築されている点は評価できる。

(委員長) では、選定理由として申請者の評価できた点の方向性については、人材育成サイクルや地域連携を通じた地域貢献、特色ある魅力的な海洋プログラム等の提案、最新の災害情報等を取り入れた安全管理の徹底の3点としてよいか。

(委員一同同意)

(委員長) 続いて、課題・要望の整理に移る。課題についてはすでにいくつか意見が出されているため、改めて整理する。1つ目は、魅力的な海洋プログラムが十分に提案されている一方、それが実施できない場合における陸上プログラム等のさらなる充実である。2つ目は、実質的な稼働率100%という状況が比較的継続すると見込まれる中で、統計上の資料を踏まえた魅力的なプログラムの提案や、プログラムの見直しも含めた持続的な検証サイクルを十分に構築・提示してほしいということである。他に意見はあるか。

(委員) 情報管理の徹底については、USBメモリの管理方法も含め、今後の要望事項として挙げていきたい。

(委員長) 確かに、情報管理の徹底も重要である。

(委員) 今後、施設が老朽化していく中で修繕費に注意を払ってほしいということと、業務の効率化についてバランスよく対応していただきたい。

(委員長) 今後見込まれる運営費や修繕費の増加に備えて、業務の効率化を図ることでバランスをとって対応していくという内容か。稼働率が上がっていく中で難しい課題ではあるが、非常に重要な視点である。

(委員長) では、課題・要望について整理する。1つ目はプログラムについてであり、代替プログラムの充実を図ること、および利用者アンケートの分析や統計的な利用データを反映させたプログラムの継続的な見直し・改善サイクルを確立すること。2つ目は情報管理についてであり、個人情報や業務情報の管理体制(情報管理)をより徹底すること。3つ目は経費削減についてであり、修繕費等の増加を見据え、業務の効率化を図りながら経費削減を引き続き行うこと。以上の3点で概ねよろしいか。

(委員一同同意)

(委員長) では、以上で全ての協議を終了する。

— 課長挨拶 —

— 閉 会 —